

mail magazine
noichi

no.80_January 2018

Published by an e-mail magazine editorial department.
All rights reserved. © utanoichi okuda. No part of this publication may be reproduced without the written permission of the Publisher.



第八十号

2018年の抱負

メルマガnoichi80号、今月のテーマは「2018年の抱負」。

本年もメルマガnoichiは、読者の皆様に感謝しながら、毎月のメルマガを楽しく制作します。

本年もよろしく願い申し上げます！



今年最初のメルマガということで、今月は年末年始のご報告と、簡単に一年の抱負を述べようかと存じます。ご笑覧頂ければ幸いです。

昨年末は、出演していた歌舞伎座の興行の千秋楽が二十六日だったこともあり、翌二十七日が私のオフィスの仕事納めでした。二十九日に訪ねて来られたお弟子さんのお稽古が私の仕事納めとなり、そのまま自宅で忘年会、この日は妻が料理を担当してくれるというので、私はむずかる娘を寝かしつけていたのですが、一緒に眠ってしまつて、起きたら友人がもう帰っていました。ひどい話です。

三十日は、娘の「お食い初め」をしました。本来は生まれて百日目で行う儀式なのですが、両家の家族と私の予定がうまく合わず、十日ほど遅れて行うことになりました。この日は九十五歳の大叔母・礼子、九十二歳の祖母・靖子、オランダから一時帰国中の妹・麗(うらら)とその家族も参加してくれるなど、ゼロ歳から九十五歳まで、大変賑やかで、縁起の良い宴となりました。

大晦日、元旦は妻と娘と三人で静かに過ごしました。昨年娘が生まれて、色々なことが変わりました。例えば、夫婦の関係性が変わりました。これまで以上にお互いの連携が重要になったので、先の予定を細かく打ち合わせたり、育児について話し合ったり、コミュニケーションをとる機会が増えました。私が地方にいる時などは、妻が娘の写真や動画を送ってくれたり、テレビ電話で娘の顔を見せてくれたり、なんでもないようなことが、私の楽しみになりました。子育ては大変なことでも沢山ありますが、やはり「可愛い」から育てられる、という当たり前のことを実感している今日この頃です。

一月五日は祖父・唯是震一の命日ということで、久しぶりにお墓参りをしました。娘の誕生や、祖父の追善演奏会のこと、歌舞伎座での「楊貴妃」のこと、墓前に報告することが沢山あったので、お参りが済んだら、とても安心しました。翌六日が仕事始めとなりました。今月は地方遠征がやや多め

で、北は北海道、南は九州まで、移動距離もあれば気温差も大きく、ついでにこの時期は変なウイルスも多く、健康管理には気をつけなければいけません。待っていて下さる現地の方々との再会や交流から元気を頂き、また、喜びを感じています。曾祖父や祖父がそうであったように、各地を訪ね歩き、お互いに元氣な顔を見せ合い、共に楽しい時間を過ごし、親睦を深めていくことは私のライフワークであります。それは、これから先もずっと変わらない、私にとって一番大切なことだと思っています。

もう一つ、同じくらい大事に思っていることがあります。芸の研鑽です。私が稽古で腕を研かなければ、私の価値は上がりません。私はそういう世界を生きているのだと思います。また、伝統芸能である以上、古典作品の伝承は何よりも大事な使命であると思います。もちろん、古典が全てではありません。近代、現代の名作を後世に伝え遺し、新しい作品を生み出す挑戦をしていかなければ、芸能というものは前進しません。芸能というのは、やるのが沢山あるのです。

まだまだ力不足な私ですが、後世に繁栄させていく責任があると思つて、いつも箏曲の未来を展望しています。箏曲界の屋台骨の一つを支えるくらいにはなれるよう、一生懸命勉強して参る所存です。本年も頑張ります。ご指導、ご鞭撻、どうぞよろしくお願い申し上げます。

奥田 雅楽之一



Illustration: morimoe

◎あとかぎ◎

クリスマスが年々静かになっているせい、年末があつと言う間に終わってしまった気がする。クリスマスは元々は家族で静かに過ごすのが当たり前だから、今の方がよいのだが、その後の年末から年始にかけてが少し寂しい。「ゆく年くる年」は年々短くなつてしまった。地方によっては除夜の鐘がうるさいという苦情があつて、取りやめたなんて話もある。

西欧諸国ではクリスマス休暇はあつても、正月はそんなに休まないらしい。クリスマスツリーが年を越しても飾つてあるのも珍しくない。正月が一年で一番重要なイベントなのは東洋だけだろう。沖縄では正月が三度あるそう。普通の正月に加えて、旧正月が二度目。さらに旧暦の一月十六日はあの世の正月「ジュウルクニチー(十六日祭)」。タイやシンガポールも正月が三回で、スリランカではなんと四回もあるそう。年をまたぐことで前の年のいやな事をきれいさっぱり忘れてしまおうというのも東洋の、もしくは日本独特の感覚で、都合がいいと言つてしまえばその通り。それでも、三回、四回と気持ちが一変できるとしたら、それはそれで、いいものかもしれない。

グラフィックデザイナー (http://www.1938.jp) みやはらたかお

